



紙芝居「ため池とハザードマップ」

**紙芝居による出前講座**  
**「ため池とハザードマップ」**

県内ため池の現状と課題  
 本県には約4千カ所の農業用ため池があり、そのうち1千472カ所が防災重点ため池決壊した際、人的被害を与えるおそれがあるため(池)に指定されています。それらほとんどが明治時代以前に築造されたものであり、今後起こりうる大地震、局地的な豪雨発生の際にため池が壊れ、下流に被害をもたらす可能性があります。

そのため今後住民に対して、どのように防災意識の重要性を浸透させていくのが課題となっています。

**出前講座の目的**  
 このような背景から、今年度より「田んぼの学校・畑の学校」

**【特集】**  
**出前講座の新たな取組**  
 ～防災意識向上に向けて～

のうくうかん  
**農空間**

第79号

発行所  
 福島県農林水産部  
 農村計画課

推進事業と連携し、子どもたちの防災意識の向上を図る取組として、「ため池とハザードマップ」と題した紙芝居の出前講座を実施しております。

紙芝居を通じて子どもたちにため池の役割やハザードマップの重要性というものを認識してもらおうとともに、その子どもたちが家族にその内容を伝えることで、ハザードマップが広く知られるようになり、地域の防災力アップに繋がることが期待されます。

**出前講座の反応とこれから**  
 紙芝居での講座を実施した感想としては、ただ内容を説明するだけでなく子どもたちの反応を見ながらいかに分かりやすく説明できるかが重要であり、今後行っていく出前講座の課題であると、身をもって実感しました。

子どもたちの反応は様々で、紙芝居に興味を持ち、内容を理解した児童もいれば、内容がよくわからないといった児童も見受けられました。

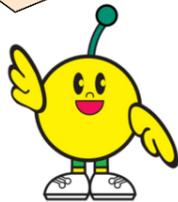
また、担当教員の方々からも、「児童がハザードマップの重要性を理解し有意義な時間だった」「近くにため池があるにも関わらず、それをため池だと認識していない児童も多い」「ため池をイメージできるような工夫が必要」など多くのご意見や感想をいただきました。それらを今後の出前講座の内容に反映させ、子どもたちがより理解しやすい

ものへと改善していきたいと考えております。  
**おわりに**  
 現在、田んぼやほ場整備に関する内容の新たな紙芝居を作成中で、来年度からは「ため池とハザードマップ」と二本立てで出前講座を行い、子どもたちの防災に対する意識をさらに高め、防災減災事業のPRと田んぼの役割についてのPRをしていきたいと思っております。

引き続き皆様方のご協力をお願いいたします。

【農村基盤整備課】

みんな楽しみながら学んでるよ!!



紙芝居による出前講座風景 (左: 菊田小学校(いわき市)右: 関柴小学校(喜多方市))

地域に根ざした 水土里ネット

阿武隈川上流 土地改良区

水争いの歴史と西郷ダム

阿武隈川上流土地改良区は、白河市を中心とし、上流は西郷村より、下流は石川町新屋敷地区にかけての耕地約2千4百ヘクタールを受益地とする国営造成施設「西郷ダム」を東北農政局より受託、維持管理しております。

那須山麓甲子高原に端を発する阿武隈川の支流・鳥首川を西郷村鶴生字黒土地点で堰止めた西郷ダムは、間接流域の黒土川頭首工からも隧道を通じ導水し、満水時には330万トンの水を湛え、かんがい期に不足する阿武隈川の本流に補給水として放流することにより、地域の農業



豊かな水をたたえる西郷ダム

用水の安定を図っています。本地区の水田は県南地方有数の穀倉地帯であり、良質米の産地ですが、その昔は十年に3・4回訪れる渇水により水争いが絶えず、特に大正3年に滑津原(現在の中島村)の開墾に際した穴堰の水門拡張の計画に対し、

下流の沢田村(現在の石川町)の水利組合が抗議したことを発端に周辺の村々や県、警察までも巻き込んだ旧田側と開田側との水騒動が十数年続きました。



水争いを取上げる新聞記事 (昭和11年 福島民報新聞)

対立の激化による地域感情の悪化を懸念した県知事や地元有力者の仲裁により西郷貯水池の構想が生まれ、昭和12年、ダム建設が計画され、一町八ヶ村耕地整理組合(当改良区の前身)を結成し、昭和17年6月に設立総会、同10月に県営事業で着工しましたが、第二次世界大戦により中断し戦後の昭和22年に国営事業として再開、昭和30年5月に漸く完成しました。

以来、管内の水争いの問題は解消され、65年目の今も地域発展の礎として機能を發揮し続けています。受益農家の方々の西郷ダムへの理解も深く、毎年の賦課金も永く未納者ゼロで経過しています。

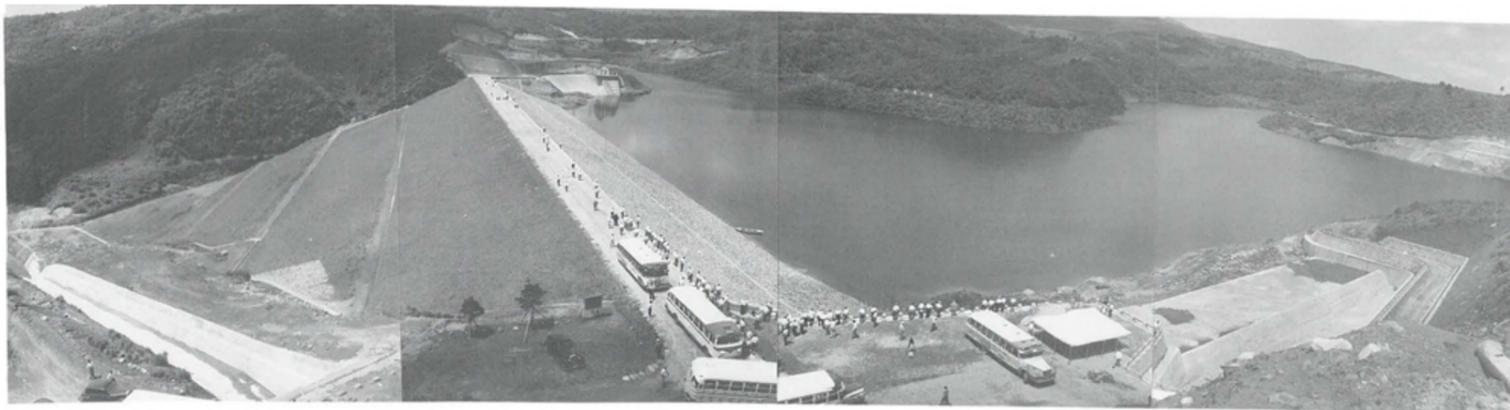
昨年の台風でダムの洪水調整等の役割がこれから求められるようになると思います。非農家の方々にもダム建設時の歴史をしっかりと認識いただき、地域全体で先人たちが遺してくれた西郷ダムを守り、活用し、次世代に受け継いでいけたらと考えています。

【阿武隈川上流土地改良区】

西郷ダム建設当時の写真



中心床掘埋戻しの状況



竣工当時の西郷ダム全景

県内からの便り

高収益作物の導入・生産拡大への取組

〜農業生産基盤整備に向けた集落の活動報告〜

南会津農林事務所

南会津地方は、県土面積の17%(23万4千153ヘクタール)を占め、神奈川県とほぼ同じ広さがあり、その93%が森林で耕地面積は1.7%(3千871ヘクタール)のみとなっていますが、当地域はトマト・アスパラガス・リンドウ・宿根カスミソウなどの園芸作物の生産が盛んで、「南郷トマト」として県内初の地理的表示(産地登録)や「会津田島アスパラガス」として地域団体商標登録されるなど、地域ブランドが確立され、市場からも高い評価を得ています。

しかし、農業就業人口に占める65歳以上の割合は75%と県平均(65%)と比べて10%高く、今後の生産維持を図るためにも新規就農者の確保と数少ない担い手農業者への農地集積を図る必要があるが、水田面積の1/4近くが10アール程度の小区画ほ場となっており、担い手農業者への集積・集約が進みにくい状況となっています。そのため、管内各地から水稲生産の効率化を図るために水田の大区画化とトマトやアスパラガスなどの高収益作物導入を図るための汎用化水田・畑地の整備が求められています。

下郷町の1地区で早期調査計画着手に向けた地元調整が進んでいます。

これからも南会津農林事務所農村整備部と農業振興普及部・南郷普及所が連携を図り、関係町や地元役員会と協力しながら各地域の話し合いや先進地研修会の実施など、担い手が求める理想的なほ場整備を行うための準備を進めて参ります。

【農村整備部】



農研機構から水管理システムについての説明を受ける只見町梁取地区の担い手



ほ場整備に向けた話し合い(南会津町鴛鴦集落)

福耕支援隊情報

相双農林事務所農村整備部に自治法派遣により応援に来ていただいている2名の福耕支援隊をご紹介します。

西田 幸洋 主査【滋賀県】

【所属】

相双農林事務所農地計画課

【担当業務】

市町村の災害復旧事業の審査・指導業務を担当

農地計画課では、市町村の災害復旧事業の審査・指導業務を担当する福耕支援隊として、滋賀県から西田幸洋さんに1年間の任期で応援を頂いています。

西田さんには、新地町、浪江町、飯館村および南相馬市の農地や農業用施設(水路、ため池等)の災害復旧事業を進めて頂いており、今年度は東日本大震災により被害のあったため池について、飯館村で2箇所、大熊町で1箇所復旧が完了する予定です。また、次年度には飯館村において集落排水施設の復旧が完了します。農地・農業用施設や生活基盤が復旧することで豊かな農村に戻れることを願ってやみませ

今年度も残りわずかですが、福耕支援隊のサポートを受けながら復旧・復興に励んでいきたいと思えます。



災害査定に立会する西田さん(中央左)

佐藤 吉平 主任主査【秋田県】

【所属】

相双農林事務所農村整備第三課

【担当業務】

ほ場整備事業小高東部地区における工事監督や地元の要望の調整

農村整備第三課では、秋田県の佐藤吉平さんが福耕支援隊として、工事の監督や地元要望の調整など、日々全力投球で業務に取り組みでいただいております。

佐藤さんには、ほ場整備事業小高東部地区(南相馬市小高区)を担当いただいておりますが、現場を十分確認し適切に判断する仕事ぶりは、特に若手職員から厚い信頼があります。

また、令和元年10月の台風による災害対応のなか、新規採用職員の指導や担当地区以外の通常業務も対応いただくなど、佐藤さんには本当に感謝の気持ち一杯です。

今年度も残りわずかですが、佐藤さんの力をお借りしながら、復旧・復興が着実に前進できるよう、課員ONETEAMとなつて頑張りたいと思えます。

【相双農林事務所 農村整備部】



工事の段階確認を行う佐藤さん(右)

新規採用 職員の紹介

- ① 所属・氏名
- ② 出身地
- ③ 学生時代の専攻
- ④ 志望動機・担当業務・抱負

- ① 南会津農林事務所農村整備部 農村整備課 今泉 友希
- ② 田村郡小野町
- ③ 共生環境課程
- ④ 学生時代に農業農村について学ぶうちに、生活の重要な要素である食と農業の関係について興味を持つようになりました。生産基盤の整備の面から農業を支えていきたいと思

現在、中山間地域総合整備事業の南会津西部地区で水路工や農道改良工等を担当しています。慣れないことばかりですが、より良い農村環境形成の一助となるよう必死に取り組んで参ります。

ご迷惑おかけすることが多々あると思いますが、よろしくお願いたします。



ふくしまからはじめよう。 Future From Fukushima.

農業土木職員の一員です!



編集後記

3月、年度末のこの時期は卒業や異動、退職など別れの時期。新型コロナウイルス感染症への対策のため、送別会など集団での催しも自粛する動きが高まっており、尚のこと寂しくなりそう。暖冬の影響もあり全国的に桜の開花が平年より早まる予想。福島の開花予想は3月27日、満開予想は4月2日(日本気象協会3月11日発表より)とのこと。昔から「桜切るバカ、梅切らぬバカ」と言われるが、桜の枝は剪定痕の癒合組織が発達しにくく、切口から腐朽菌が入り腐朽を引きやすいため、剪定後に切口に保護材を塗ることで腐朽菌の侵入を予防する必要があります。

編集担当S

『農空間』とは... 農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあつた空間の事です。



ふくしま 我們的輝き2019 写真コンテスト 入選作品より

最優秀賞 実りの秋楽し